

～在ハンガリー日本大使館～

2010年5月

— Monthly Review —

全 27 頁

政治・経済月報(4月号)

政治・内政

- 総選挙でフィデス＝キリスト教民主国民党が総議席の3分の2を超える263議席を獲得して圧勝。
- 次期フィデス政権の組閣や政策の内容が徐々に明らかに。

政治・外交

- バイナイ首相は、チェコ訪問中のオバマ米大統領主催の夕食会に出席。
- カチンスキ・ポーランド大統領夫妻他の死去に際し、ハンガリー政府はポーランドとの良好な友好関係を踏まえてブダペストで追悼式典を挙げる。

経済・社会

- 自動車輸入業者協会によると第1四半期の新車登録台数は前年同期比－5.5%。
- 第1四半期に清算されたハンガリー企業の本数は前年同期比3.3%増加。
- 2009年の食品小売の売上高第1位はTESCO。
- 4月の消費者・企業信頼感指数は－17.2ポイントへ改善。
- ナブッコ・ガス・パイプラインのハンガリー部分に関するフィージビリティスタディが開始。

○インフレ率	(y/y)	(2010年3月)	5.9%	(食品：2.3% エネルギー：3.5%)
		(2009年平均)	4.2%	(食品：4.4% エネルギー：8.2%)
○賃金上昇率	(y/y)	(2010年2月)	0.9%	(民間：4.0% 公的：－6.2%)
		(2009年平均)	0.5%	(民間：4.3% 公的：－7.9%)
○鉱工業生産	(y/y)	(2010年2月)	+8.4%	
		(2009年平均)	－17.7%	
○失業率(15-74歳)		(2010年1月～ 2010年3月平均)	11.8%	
○政策金利		(2010年4月末)	5.25%	(4月27日に0.25%の利下げ)
○10年国債利回り			6.57%	
○為替相場	(月中平均)		・1ユーロ	= 265.44 フォリント
			・1ドル	= 197.66 フォリント
			・1フォリント	= 0.47 円

《今月のトピックス》

■ I. 内 政

1. 総選挙：投開票結果と各政党の動き
2. 大政党の選挙違反疑惑
3. 投票所の大混乱：選挙キャンペーン一時中断期間の延長
4. ブダペスト市公営企業の汚職スキャンダル（続報）
5. アイスランド火山噴火による航空制限
6. 総選挙後の各政党の動き

■ II. 外 交

1. 中・東欧諸国首脳とオバマ米大統領との夕食会
2. ハンガリー・オーストリア外相会談
3. ハンガリー・クロアチア・セルビア大統領会談
4. カチンスキ・ポーランド大統領追悼式典

■ III. 経 済

1. 2009年の一般政府財政赤字はGDP比4%（速報）
2. 1月～3月の新車登録台数は55%減
3. GKI社、2010年はゼロ成長
4. 第1四半期に清算された企業数が3.3%増加
5. 2月は374百万ユーロの貿易黒字（速報）
6. オルバーン党首、競争力アップが次期政権の最重要課題
7. 3月のCPIは5.9%
8. 2月の鉱工業生産は8.4%増加
9. Ikarus、Raba と組んで新バス開発
10. フィデス、IMF、EUと新規契約又は既存契約の延長を模索
11. 2月の総賃金は前年比+0.9%
12. TESCOが2009年の国内食品小売で第1位
13. 13ヶ月目の給与を受け取る就業者は減少、金額は増加（2009年）
14. GKI、4月の消費者・企業信頼感指数は改善
15. 小売売上高の下落が減速（2月）
16. 35億ユーロのナブッコ・ガス・パイプラインの入札の事前審査
17. 4割以上の国内企業は賃上げの計画なし

18. 基準金利：25 ベーシス・ポイント切り下げ
19. 次期政権、税制、官僚機構及び地方自治体に関するプランを提出予定
20. アナリスト、財政赤字目標値修正のためのIMFとの再交渉を予想
21. ハンガリー人の1/4が貯蓄
22. ナブッコ・パイプラインのフィージビリティスタディを開始
23. 第1四半期の失業率、11.8%
24. コストコ、ハンガリーワインの販売契約に合意
25. ライアンエアー、ブダペストから撤退

■ IV. その他

- ・ 4月の選挙・支持政党に関する世論調査
- ・ 4月の為替・金利動向
- ・ 主な出来事

※本資料は当該月間の
ハンガリー紙等の報道
をベースにとりまとめた
ものです。

I. 内 政

1. **総選挙：投開票結果と各政党の動き**（11日－25日）

《2010年4月総選挙 各政党別獲得議席数》

フィデス＝キリスト教民主国民党	: 263 (68.13%) ※
社会党	: 59 (15.28%)
ヨッビク	: 47 (12.18%)
政治の新しい形	: 16 (4.15%)
無所属	: 1 (0.26%)

※ハンガリー企業家・経営者党 (MVMP) との3党連合候補1名を含む。

(1) 第1回投票（11日）

(ア) 概観

11日、国会任期（4年）の満了による総選挙第1回投票が行われた。

第1回投票（投票率64.38%）で確定したのは総議席386のうち、265議席（小選挙区119、地域比例代表146）であった。各種世論調査や専門家が総じて予測していたように、最大野党フィデス＝キリスト教民主国民党（KDNP）の2党連合が単独過半数（194）を上回る206議席を獲得し、2期8年間に渡った社会党＝自由民主連盟（SZDSZ）による左派リベラル政権の終焉を早々に決定づけた。与党社会党は比例代表で28議席を獲得するに留まり、フィデスに大きく水を開けられる格好となった。また、議席獲得が確実視されていたヨッビクは、社会党には僅かに及ばなかったものの26議席を獲得して、国会第3党へと躍り出た。また、2009年の欧州議会選挙前夜に結党された「政治の新しい形」（LMP）は、国内最大の比例区であるブダペストでヨッビクを上回る票を集める（LMP：12.81%、ヨッビク：10.84%）など、予想以上の善戦で5%足切を突破、晴れて国会進出を決めた。

ヨッビク、LMPと新政党が相次いで国会初議席を獲得した一方、SZDSZと選挙協力を行っていたハンガリー民主フォーラム（MDF）は、5%の厚い壁に阻まれて、国会へと駒を進めることができなかった（得票率2.67%）。

第1回投票で確定した各政党の議席獲得数は以下のとおり。

フィデス＝キリスト教民主国民党（第1野党、中道右派）	: 206
社会党（与党、左派）	: 28

Republic of Hungary

ヨッビク（国会外政党、極右）	: 26
政治の新しい形（国会外政党、環境・左派・リベラル）	: 5

（イ）小選挙区（定数：176）

現行選挙制度では、第1回投票で小選挙区の当選者が出るための条件として、①各小選挙区で投票率が50%を超え、且つ②トップ候補が有効投票数の過半数を獲得することが定められている。今般、①については全ての選挙区で、②についても119選挙区で条件が満たされて当選者が出た。第1回投票で確定した当選者は全てフィデス＝KDNP候補で、他党を圧倒して寄せ付けない結果となった。また、第2回に持ち越された57選挙区のうち、56区でフィデス候補が最多票を集めており、フィデスの優位は揺ぎないものとなった（ブダペスト第20選挙区では例外的に社会党候補がリード）。また、119名の小選挙区当選者のうち33名が新人、うち女性は2名であった。

第1回投票で確定した議席数は以下のとおり。

フィデス＝キリスト教民主国民党：119

（ウ）地域比例代表（定数：152）

地域比例代表で当選者が出るためには、全国20ある比例区（19県＋ブダペスト市）のそれぞれで投票率50%を超える必要があるが、今般全ての地域比例区でこの条件が満たされて投票が有効となった。なお、ある政党が地域比例代表で議席を獲得するためには、全国合算で得票率5%の足切（フィデス＝KDNPのように2党連合の場合は10%）をクリアする必要があるとあり、議席は足切をクリアした各政党の得票を元にハーゲンバッハ＝ビショフ式で配分される。今般、フィデス、社会党、ヨッビク、LMPへ計146議席の配分が認められ、未確定の6議席は全国比例代表（定数58）へと繰越された。

第1回投票で確定した各政党議席数は以下のとおり。

フィデス＝KDNP	: 87 (52.73%)
社会党	: 28 (19.30%)
ヨッビク	: 26 (16.67%)
LMP	: 5 (7.48%)

（2）第1回投票後の各党首・首相候補のコメント

（ア）オルバーン・ヴィクトル・フィデス党首

国境内外のハンガリー人にお礼を言う。これはフィデスの勝利ではなく、ハンガリーの、そして皆の勝利である。1956年及び1990年に並ぶ歴史的な快挙である。この結果は、ハンガリー国民が変革を求めているという疑いのない証拠である。私は人生最大の課題に直面しているが、この課題は解決でき

るものであり、それには全てのハンガリー人の協力が必要である。

(イ) メシュテルハージ・アティッラ社会党議員団長・首相候補

ハンガリーの有権者は、社会党政権の交代を求めた。新たな時代が到来し、新たな政治が必要である。第1回投票では誰に政権を任せるかが焦点であったが、第2回投票では、フィデス政権に対していかなる民主主義的コントロールを与えられるか争点となる。野党は強くあるべき、そして、オルバーン党首が完全な権力を握るべきではないと考える国民は、第2回投票で社会党に投票して欲しい。

(ウ) ヴォナ・ガーボル・ヨッビク党首・首相候補

ヨッビクに対する逆風が吹く中、それでも昨年の欧州議会選挙と比べて得票を2倍にすることができた。社会党を追い抜くというもっと良い結果を想定していた者もいた。フィデスと社会党が我々に対する誹謗中傷キャンペーンを行わなければ、それも実現したであろう。

(エ) シッフエル・アンドラーシュ LMP 首席候補

奇跡が起こった。「政治の新しい形」(LMP)は歴史の1頁を記した。国会入りを果たしたというだけでなく、これまでの世論調査の結果を塗り替えるものとなった。ゼロから新政党を立ち上げた仲間にお礼を言う。環境政策推進派がようやく政治に関与することができる。腐敗した政治を追いやり、クリーンな政治を行い得ることは、ハンガリーにとって希望を意味するであろう。

(オ) ダーヴィド・イボヤ MDF 代表

この結果を深刻な敗北と受け止め、代表を辞任する。選挙関連の手續に追われ、有権者の元に行くことができなかつた。資金とメディアの後押しが欠如した状況では、MDFはこれだけの結果を出すに留まった。

(3) 第2回投票に向けた各政党の動き

(ア) フィデス

12日、オルバーン・フィデス党首は、国際記者会見を開いて次期政権の主要課題につき述べたところ、概要は以下のとおり。

①最重要課題

新政権の最重要課題はハンガリーの競争力強化である。先ずは、減税、官僚主義の改善(省庁統廃合を含む)及び汚職対策に取り組む。緊縮措置よりも経済成長が重要であり、経済成長は財政赤字削減のための最善策である。

②IMFとの協議

これまでもIMFやEU関係者との会合を持ってきた。財政赤字は5月中にも2010年目標の90-100%に達し、下半期には予備が残されないことをIMFやEUは理解しなければならない。

③国会と地方議会

国会及び地方議会の議員定数を削減する法案を新政権成立前の4月26日（第2回投票の翌日）にも提出する。なお、秋の地方選挙を先延ばしするつもりはない。

④治安

新政権発足後2週間以内に、問題を抱える地域で法と秩序を回復する。また、新たに3000人の警官を採用すべく、資金源と配置先を計画済みである。

⑤国境外ハンガリー人への二重国籍の付与

国境外ハンガリー人へのハンガリー国籍付与問題については早い時期に取り上げる。

⑥公益企業規制

3分の2以上の議席を得ることができれば、国及び地方自治体の所有する企業の管理・規制を強める法律を半年後までに制定する。

(イ) 社会党

13日午後、レンドヴァイ・イルディコー社会党党首は、党役員会及び選挙対策委員会の決定事項として、ブダペスト小選挙区の同党候補4名が25日に行われる総選挙第2回投票への立候補を取下げの旨発表した。立候補が取下げられたのは、ブダペスト第8小選挙区（ハトヴァニ・チャバ候補）、同第10小選挙区（サボー・ゾルターン候補）、同第21小選挙区（バーラディ・ゲルゲイ候補）及び同第31小選挙区（アヴァルケシ・デジェー候補）であり、党によればあくまで候補者側からの申し出を尊重しての措置であった。

レンドヴァイ党首は、右決定が社会党の「自発的なアクション」であり、他党からの見返りを期待するものではなく、「社会党のためでも、LMPのためでもなく、あくまで民主主義のための決定であり、オルバーン政権の権力偏重に対抗する措置である」ことを強調した。なお、立候補を取り下げた4名は、第2回投票でLMP候補へ投票するよう有権者に呼びかけた。

ちなみに同党首は、右の記者発表の行われる前日（12日）、第1回投票でLMPやMDFに投票した有権者、あるいは投票所に足を運ばなかった有権者に対して、第2回投票で社会党候補に投票するように呼び掛けており、僅か1日で180度方針を転換したことに、党内外から様々な憶測を呼ぶこととなった。

(ウ) 「政治の新しい形」(LMP)

12日、ヤーヴォル・ベネデクLMP報道官は、第2回投票で同党全13候補が立候補を取下げの意向でないこと、及びLMP候補者のいない44選挙区でも特定の他党候補を支援する用意がないことを確認した。

翌13日に、前述(イ)のように社会党4候補が立候補を取下げたことに対して、メセリチ・タマーシュLMP評議会書記は、「社会党が同党候補者をどうしようと、我が党の方針はぶれたりしない」とコメントした。

同日夜、シッフエルLMP首席候補はMTV番組内で、「社会党の立候補取下げ措置は、フィデスの3分の2議席獲得の阻止を狙ったものではなく、LMPの信頼に泥を塗る目的で行われたのではないか。我が党が社会党との間で何らかの合意をしたという事実はないし、この件について自分自身、報道を通じて初めて知った。」と述べた。

(エ) ヨッビク

21日、ヨッビクは、ボルショド＝アバウーイ＝ゼンプレーン県第8小選挙区（エデレーニ市）のミクローシュ・アールパード候補の立候補取下げを発表した。同候補は、第1回投票結果で第3位の得票（19.13%）を得ていたが、フィデスの単独3分の2議席獲得の阻止のため、第2位のモルナル・オスカル無所属候補（現エデレーニ市長、得票24.14%）を側面支援する方針を固めた。モルナル市長は、2006年総選挙ではフィデスから立候補、当選したが、任期中に反ユダヤ的・反ロマ的発言をして物議を醸したため、フィデスは今次総選挙での公認を見送っていた。

一方、同選挙区の第1回投票で首位に立ったのはフィデス公認のダヘル・ピエール候補であったが、得票は過半数からは程遠い36.54%に留まった。今般のヨッビクの決定は、仮にヨッビク支持者の票が全てモルナル市長に回ると単純計算した場合、第2回でフィデス候補を上回る可能性が高いと判断してのことと考えられる。

なお、同選挙区では第4位のゲール・ナードル社会党候補も決選投票進出の条件である15%以上の票（18.70%）を得て、第2回投票へ駒を進めた。予てより、「反ユダヤ主義」のモルナル市長がヨッビクと連携して逆転勝利することを警戒していた統一ハンガリー・ユダヤ教協会のクヴェシュ・スロモー首席ラビは18日、レンドヴァイ社会党党首宛ての公開書簡で、フィデス候補支援のためのゲール氏の立候補取下げを進言したが、結局受け容れられなかった。

こうしてエデレーニ市は、第2回投票を前にヨッビク候補が抜けてもなお、フィデス、現職市長、社会党の3候補が鏖る稀な選挙区となった。

(オ) ハンガリー民主フォーラム（MDF）

11日夜、ダーヴィドMDF代表は、総選挙の敗北の責任を取って党代表からの辞任を発表した。党幹部会は16日、SZDSZとの協力関係を公式に解消し、MDFの黎明期にして最盛期であった故アンタル・ヨーゼフ代表（1989-93年）・首相（1990-93年）時代の精神に回帰することを今後の方針として打ち立てた。なお、今選挙で同党首相候補を務めたボクロシュ・ラヨシュ氏は、引き続きブリュッセルに留まり、欧州議員の任期を全うすることになる。

Republic of Hungary

(カ) 自由民主連盟 (SZDSZ)

20日、レトケシュ・アッティラSZDSZ代表は選挙戦を総括し、MDFとの協力は結果として失敗に終わったが、ボクロシュ氏を首相候補として支持したことは間違いではなかった旨述べた。同代表によると、5月25日までに党全国大会が召集され、秋の統一地方選挙に向けた新執行部の選出と党名の変更が行われる見込みである。とはいうものの、旧来からのリベラル支持層は既にSZDSZを見限っており、同党の政治使命はとうに終わっていると見る向きが支配的となっている。

(4) 第2回投票 (25日)

(ア) 概観

25日、総選挙第1回投票の結果、当選者が出なかった57小選挙区において第2回投票が実施され、最終的な当選者が確定した(投票率46.66%)。同時に、全国比例(定数:58、地域比例から繰越:6)の議席配分が行われ、ここに全386議席の当選者の顔触れが明らかとなった。メディアや専門家の大方の予想通り、フィデス=KDNPが総議席の3分の2(258議席)を上回る263議席を獲得し、大勝利を収めた。

第2回投票後、最終的に確定した各政党の議席獲得数(総議席数に占める割合)は以下のとおり(改選前議席数:社会党188、フィデス139、KDNP23、自由民主連盟18、無所属15)。

フィデス=KDNP	: 263 (68.13%) ※
社会党	: 59 (15.28%)
ヨッビク	: 47 (12.18%)
政治の新しい形	: 16 (4.15%)
無所属	: 1 (0.26%)

※フィデス=KDNP=ハンガリー企業家・経営者党(MVMP)の3党連合候補1名を含む。

(イ) 小選挙区 (未確定:57)

第2回投票は、投票率25%を超えた場合に有効とされ、一番多くの有効票を得た候補者が当選者となる。フィデス=KDNPは、第1回投票の未確定小選挙区57のうちの56において首位に立っていたが、最終的に獲得したのは54議席であった。

社会党は、第1回投票後に唯一首位に立っていたブダペスト第20選挙区(トート・ヨーゼフ候補)で勝利したことに加え、第19選挙区でもサニ・ティボル候補が接戦をものにし、辛うじて2議席を獲得した(共にブダペスト市XIII区)。しかし、「民主主義のため」に自発的に立候補者を取り下げた4選挙区で

は、フィデス候補がいずれも6割以上の得票率でLMP候補を圧倒し、結果としてフィデスの3分の2議席獲得の阻止には繋がらなかった。

また、ヨッビクが唯一立候補者を取下げたボルショド＝アバウーイ＝ゼンプレーン県第8選挙区（エデレーニ市）では、思惑通りにヨッビクの支持者の票がモルナール市長へと流れる形となり、無所属の現職市長がフィデス候補を抑えて当選を果たした。

第2回投票後、最終的に確定した各政党の議席獲得数は以下のとおり。

フィデス＝KDNP	: 173※
社会党	: 2
無所属	: 1

※フィデス＝KDNP＝MVMPの3党連合候補1名を含む。

(ウ) 全国比例代表（定数：58、地域比例から繰越：6）

全176小選挙区で当選者が出揃い、各選挙区で2位以下の候補に投じられた「死票」数が確定したことで、全国比例の定数58議席と地域比例から繰越された6議席の計64議席がドント式によって4政党に分配された。

各政党の全国比例議席獲得数は以下のとおり。

フィデス＝KDNP	: 3
社会党	: 29
ヨッビク	: 21
LMP	: 11

(5) 第2回投票後の各党首・首相候補のコメント

(ア) オルバーン・フィデス党首

無酸素登頂に成功し、フィデス＝KDNPは68%を獲得した。投票所で民主主義による革命を起こした。オリガルヒー（新興財閥）による古い体制を倒し、国内外の全てのハンガリー人のため、国が一体となって協力する新しい体制を作る。私利私欲の政治は終わりである。勝者にあるのは正義でなく復興という課題である。

(イ) レンドヴァイ社会党党首

党首を辞任する。フィデスの3分の2議席獲得は良いことではないが、社会党は最大野党として民主主義のために尽くしていく。

(ウ) ヴォナ・ヨッビク党首

国民の声と望みを体現する政党が初めて国会内に生まれる。ヨッビクは国会で大きなサプライズを起こす。減税や治安対策等、フィデスがヨッビクの目的に見合った政策を進める場合には協力するが、そうでない場合には、あらゆる

手段を使ってこれに対抗する。

(エ) シッフェルLMP首席候補

ハンガリーの歴史上初めて、環境政党出身の国会議員が16名誕生する。LMPは建設的野党として国会で政治活動を行い、塹壕に身を隠しながら互いを狙撃しあうような政治のあり方を変えてみせる。

2. **大政党の選挙違反疑惑** (7日－8日)

(1) ヨッビクに近いインターネット・サイトKuruc.infoは7日から8日にかけて、クバトフ・ガーボル・フィデス幹事長と思われる人物が、同党支持者の個人情報データベースが存在すること、2009年ペーチ市長選挙で社会党に対して妨害工作が行われたことなどにつき講演している音源を公開した。総選挙の数日前という時期にフィデスの選挙違反疑惑が浮上したことで、ヨッビク、社会党、ハンガリー民主フォーラムは、フィデス=KDNPに対して抗議を行った。

今回リークされた音源は、2009年9月1日にバラトンサルソーで行われたフィデス青年部のワークショップで録音されたものと考えられている。声の主によると、フィデスは支持者の氏名、電話番号、住所、メールアドレス、年齢、同党に対する熱意の度合いなどについて全て把握しており、例えば2009年5月のペーチ市長選で、フィデスのパーヴァ・ジョルト候補(現市長)に投票した36,500名がどこの誰であるか判明しているという。同様に、パーヴァ候補に投票しなかった15,000名についても調べがついているという。また、パーヴァ陣営の選挙スタッフに、社会党のスイリ・カタリン候補(前国会議長)の選挙チラシを事前に大量入手させ、それを投票当日の日曜日に集合住宅のポストへ投函するよう指示し、社会党陣営に選挙違反(キャンペーン一時中断不履行)の疑いがかかるよう、妨害工作を企図したことについても仄めかしている。

社会党は、レンドヴァイ党首とプチ・ラースロー幹事長の連名で同疑惑の捜査を求める要請を行ったが、最高検察局は14日、「個人情報の濫用及び選挙違反を法的に証明することはできない」としてこれを却下した。全国選挙管理委員会(OVB)は「フィデスに対する訴えは法的に立証可能である」とする見解を発表したが、最高裁判所はOVBに対し、これを取り下げるよう命じた。

(2) 8日、インターネット動画サイトYouTubeに「フィデス(クバトフ・ガーボル)だけではない－社会党にもデータベースは存在した」と題する動画がアップロードされた。動画では、撮影者男性(声質は変えてある)が社

会党の有権者データベースにアクセスし、そこから様々な個人情報を抽出してみせる様子が映っている。同撮影者によれば、社会党は2002年以来、党員に有権者の個人情報収集をさせていたという。

シゲトヴァーリ・ヴィクトル社会党広報官は、動画中のデータベースが紛れもなく同党のものである旨認めたものの、データ収集の方法自体には法的な瑕疵はなかったとしている。

選挙管理委員会は、疑惑の真相究明のため、刑事訴訟手続きを開始した。

3. **投票所の大混乱：選挙キャンペーン一時中断期間の延長**（11日）

(1) 総選挙第1回投票の実施された11日の19時15分、シゲティ・ペーテル国家選挙管理委員会（OVB）委員長は、地方自治省での共同記者発表にて、9日深夜から11日19時までの予定で告示されていた選挙キャンペーン一時中断期間を暫定的に90分間延長することを決定した旨述べた。これは、投票終了時刻である19時を過ぎても国内各地で未だ投票手続きを完了できず、投票所前で行列をなしている数千人の有権者に配慮した措置であった。結局、憲法裁判所により、通常選挙キャンペーンの再開ないし公共メディアでの結果速報の開始が承認されるまで3時間以上にわたり、メディア各局は政党や政治家の名前に言及することを避けながら選挙特番を放送するという苦しい対応に追われた。

(2) 今回問題となったのは、自身が選挙民登録をしている自治体以外での投票を希望する有権者が、投票当日に指定された投票所に大挙して押し寄せたために、ブダペスト、ジュール、カポジュヴァール、セゲド、ペーチなどの都市部を中心に終了時刻の19時までに投票を締め切れない事態が多数発生したことである。投票の順番を待つ人々の行列は、長い場所で数百メートルにも上り、1票を投じるために7時間以上待たされた者もいた。最後の1人が投票を終えたのは、翌12日午前1時15分過ぎであった。また、長時間行列に並ぶことを諦め、投票を断念した有権者も相当数いたと思われ、一部からは今回の投票の合法性を疑う声が上がった。

(3) こうした混乱が発生した背景には、2007年に総選挙投票に関する規則が改正されたことがある。2006年総選挙までに適用されていた旧制度では、有権者は事前に希望する他小選挙区（一時訪問先など）を申告し、当局から発行された証明書を携行すれば、同区域内任意の投票所で投票することが許されていたが、新制度では各希望区域内の指定された投票所でのみ受け付けられることになった。しかし、指定投票所の数が各選挙区に1か所と非常に少な

いことに加えて、受入先である投票所の人手不足や効率の悪さも手伝い、有権者の便宜に応えるのに十分な体制がとられていないことが明らかとなった。

(4) なお、25日の第2回投票に際しても、指定投票所で長蛇の列ができることが懸念されていたが、投票率が50%を割り込んだこともあり、第1回のような混乱状況は国内どこにも見られなかった。

4. **ブダペスト市公営企業の汚職スキャンダル (続報)** (3日・20日)

(1) ブダペスト市交通会社 (BKV)

3日付「マジャル・ネムゼト紙」は、ブダペスト市交通会社 (BKV) がハンガリー・ボーイスカウト連盟 (Magyar Úttörők Szövetsége) に対して無償でドナウ川遊覧船ツアーを手配した疑いにつき報じた。同紙によると、2007年7月、チッレベールツで合宿中のボーイスカウトに対して、地元のニャコー・イシュトヴァーン議員 (社会党) が、ツアーの無償手配をしたとされる。この外にもニャコー議員には、BKVからバスを無料借用した疑惑も持たれている。

(2) 首都公共空間整備保全会社 (FKF)

20日付「マジャル・ネムゼト」紙は、首都公共空間整備保全会社 (FKF) が、ハジョー・ミクローシュ元ブダペスト副市長 (社会党・当時) やメシュテルハージ・エルヌー前市長相談役らの汚職の舞台となった疑いがあると報じた。元副市長らはFKFに対して、自らが懇意にしているホルヴァート＝ドーチ＝レーマン法律事務所 (HDL) に優先的に大規模案件を斡旋させた疑いが持たれている。また、高額な入札の際には、ハジョー、メシュテルハージ両氏によって落札する企業があらかじめ決められており、先方に落札金額を事前に知らせる見返りとして、入札金の一部を返納させていたとされる。

なお、ブダペスト市警察は5月4日、手始めとして、BKVとの間で数千万フォリント規模の不正取引が交わされた疑いで、HDL所属のホルヴァート・イヴァーン弁護士の身柄を拘束し、事務所の家宅捜索に踏み切った。FKF関連の汚職スキャンダルの実態が明らかになるのも、もはや時間の問題となっている。

5. **アイスランド火山噴火による航空制限** (16日—19日)

アイスランドのエイヤフィヤットラヨークトル火山の大規模噴火 (14日) によって、大量の火山灰が上空に滞留した結果、欧州各地で航空便の欠航及び

空港の閉鎖が相次いだ。ハンガリーでも16日19時、フェリヘジ空港を含む国内全ての空港の閉鎖が宣言された。19日正午、空港業務が再開されたが、西欧・北欧方面の便を中心に欠航が続出した。ハンガリー航空（MALEV）では、この期間だけで150便が運休し、およそ2.5万人の足に影響が出た。また、ハンガリー外務省の発表によると、帰国便の目処が一向に付かず、国外で足止めされているハンガリー国民は、19日までに80名に及んだ。また、領空内の航行制限が週末と重なったことで、陸路に移動手段を求める旅行者がハンガリー国鉄やヴォラーン・バスへと殺到し、混雑を極めた。

6. **総選挙後の各政党の動き**（26日－29日）

（1）26日、オルバーン・フィデス党首は国際記者会見を開いて次期政権の主要課題につき述べたところ、概要は以下のとおり。

①最優先課題

新政権は、まず経済を軌道に乗せ、また、法と秩序を取り戻す。直ちに憲法改正に関わるような措置を執ることは予定していない。最初に国会に提案するのは、政権移行プロセスの法典化に関するものであり、次に福祉制度改革、官僚主義の打開、地方自治体との協力に取り組む。しかしその前に、真の財政状況が明らかにされねばならない。

②減税

家族を優遇する新税制は2011年1月以降となる。2010年中に導入されるのは、緊急を要する減税の一部のみであり、むしろ脱税防止策の強化に至急取り組まなければならない。

③IMFとの協議

IMFもEUも我々の上位に位置するものではない。IMFと協議するが、その目的はIMFの一方的な押しつけを受け入れることではなく、IMFがハンガリーを支援するパートナーとして確信を得ることである。

④財政赤字

本来望ましい赤字水準は対GDP比0%であるが、現状に鑑みれば3.8%という計画は達成不可能である。

⑤ハンガリー国立銀行と金融監督庁

金融監督庁は本来の任務を果たしていない。国立銀行はオフショア企業の騎士の宿とはなり得ない（注：キプロスにオフショアで会社を持っていたシモル総裁の交代を示唆）。

⑥外国人による農地購入モラトリアム

EUにモラトリアムの延長を要請する。また、その結果に関わらず、外国人

Republic of Hungary

による買い占めを阻止する制度を構築する。

⑦ ナショナル・コンサルテーション

次の5つの分野で広く国民の声を問うナショナル・コンサルテーションを実施する。

国民協力文化(Culture of National Cooperation)の受容、法と秩序、経済、保健、福祉

(2) 28日、ショーヨム大統領は選挙後初めてオルバーン・フィデス党首を大統領府に迎え、首班指名の意思を伝え、組閣を要請した。なお、ショーヨム大統領は新国会の開催を5月14日に予定している。

(3) 29日、オルバーン首相候補は記者会見を開き、首相を支える主要3名の人事を発表した。

ナブラチチ・ティボル副首相、行政・司法相（前議員団長）

ヴァルガ・ミハーイ首相府長官（副党首、元蔵相）

シーヤールトール・ペーテル首相報道官（前フィデス報道官）

(この他既に、マルトニ・ヤーノシュ元外相が新外相に、ラーザール・ヤーノシュ・ホードメズーヴァーシャルヘイ市長が新議員団長に就任することが発表されている。)

(4) 29日、ヨッビク国会議員会合は、ヴォナ党首が議員団長を兼任することを確認し、副議員団長にバルツォー欧州議員を含む4名を選出した。副党首には、ヘゲデューシュ・タマーシュ氏が就任する。また、副議員団長に就任するバルツォー氏に代わって、コヴァーチ・ベアラ・ヨッビク国際部長が欧州議員を引き継ぐことを決定した。

Ⅱ. 外 交

1. **中・東欧諸国首脳とオバマ米大統領との夕食会**（8日）

8日、START後継条約署名のためチェコを訪問したオバマ米大統領は、中・東欧11カ国の大統領又は首相との非公式夕食会を主催し、ハンガリーからはバイナイ首相が出席した。夕食会後バイナイ首相は、エネルギー問題や中・東欧地域の安全保障、アフガニスタン情勢等について話し合われたことを明らかにし、オバマ大統領がハンガリーを始めとするV4諸国のアフガニスタンでの取組を評価し感謝の意を表したことを記者団に語った。また、バイナイ首相

は、夕食会の前にオバマ大統領と直接話す機会があり、同大統領からハンガリー一の危機管理の成果への祝意とハンガリー政府がこの1年で国を安定させたことは非常に大きな成果であるとの言葉をかけられた旨明らかにした。

2. **ハンガリー・オーストリア外相会談** (15日)

15日、バラージュ外相は、ジュール市においてシュピンドルエッガー・オーストリア外相と会談した。会談では、良好な二国間関係が確認され、両外相は、西バルカン諸国のEU加盟や欧州対外活動庁等について意見交換を行った。また、バラージュ外相は、ハンガリーのV4議長国及びEU議長国としてのイニシアティブ、3月に開催したハンガリー・セルビア・クロアチア・ギリシャ4カ国外相会談、ドナウ地域戦略を始めとしたハンガリーEU議長国の優先事項等についてシュピンドルエッガー外相に対して説明を行った。シュピンドルエッガー外相からは、2月にブダペストで開催されたエネルギー安全保障サミットやドナウ・サミット、3月の東方パートナーシップに関するV4拡大外相会合開催等のハンガリーのイニシアティブに対する称賛の言葉が発せられた。

3. **ハンガリー・クロアチア・セルビア大統領会談** (16日)

16日、ショーヨム大統領は、ペーチ市においてタディッチ・セルビア大統領及びヨシポビッチ・クロアチア大統領との三者会談に臨んだ。

三カ国の大統領は、「文化民 (kulturális nemzet)」の概念 (注) が少数民族問題にも適用できるとし、欧州における同概念の普及に努めることに合意し、ショーヨム大統領は、文化民の概念を普及させる目的は、EUが民族問題に関与し、民族問題の担当委員を設置することであると述べた。

また、クロアチア及びセルビアのEU加盟についても話し合われ、ショーヨム大統領は、両国のEU加盟のためハンガリーは引き続きあらゆる支援を行うことを改めて表明した。

さらに、ショーヨム大統領は、ハンガリーが、3カ国に広がるドナウ、ドラヴァ及びムール川流域のユネスコ生物圏保護区への登録申請を行い、クロアチアも現在申請書を準備中であり、セルビアも参加を検討中である旨記者団に対して語り、同地域が登録されれば、ヨーロッパ最大の生物圏保護区が誕生する旨述べた。また、会談においては、ドナウ河地域戦略の重要性やバルカン地域の地雷除去等も議題となった。

(注) ショーヨム大統領によれば、文化民とは、国籍に拘わらず、共通の言語・文化・歴史

認識を持ち、その構成員がまとまりを成している人々の集団をいう。

4. **カチンスキ・ポーランド大統領追悼式典**（17日）

17日、国会前コシュート広場において、10日の大統領専用機墜落事故により死去したカチンスキ・ポーランド大統領夫妻他の追悼式典が開催された。国会議事堂前では半旗が掲げられ、式典にはショーヨム大統領、バイナイ首相、カトナ国会議長及びバカ最高裁判所長官のほか、各国大使館や各政党の代表者が参列した。ポーランド国歌が流れた後、参列者は同広場に設置された祭壇の前に花を供えた。同日、国旗掲揚が義務づけられている各公共機関でも黒色旗が掲げられ、ブダペストの聖イシュトヴァーン大聖堂をはじめ、国内各地で追悼ミサが行われた。

なお、18日にポーランド・クラクフ市で執り行われた国葬には、ショーヨム大統領、バイナイ首相の他、オルバーン・フィデス党首及びマルトニ元外相が出席した。

Ⅲ. 経 済

1. **2009年の一般政府財政赤字はGDP比4%（速報）**（1日）

中央統計局（KSH）は、速報ベースで2009年の一般政府財政赤字がGDP比4.0%となったと発表した。また、グロスの政府負債はGDP比78.3%となった。オスコー財務相は、概算では政府ターゲット3.9%を僅かに0.1%上回っただけであった、最終的な数値は地方政府からの報告が届く4月末又は5月初旬に明らかになると述べた。ロンドン・ベースの新興市場アナリストは、現政府による財政再建に対する努力は極めて優れたものであり、市場は選挙後も力強い新政府ができることを好意的に見ているとしている。

2. **1月～3月の新車登録台数は55%減**（2日）

ハンガリー自動車輸入業者協会（MGE）は、第1四半期の新車登録台数が前年同期比マイナス55%となったと発表した。下落した理由のひとつは高いベース効果である。2009年の最初の3四半期はディーラーが在庫削減のために購入者に対し大幅値引きを行った。同協会は、2010年下半期より新車

販売は増加し始めると見ている。また、第1四半期の新車市場はビジネス顧客が大半を占めており、この傾向は金融危機が始まったときから続いており、顧客が借入できるようになるまで継続すると指摘した。

3. **GKI社、2010年はゼロ成長** (6日)

GKI社(政府寄りシンクタンク)は、2010年の下半期に緩やかな回復を見込んでおり、通年ベースではGDP成長はゼロ近辺になると予測している。また、次期政権は国際機関や海外市場の期待に背く行動を採ることはできないことから、緊縮型の財政政策を維持せざるを得ないとエルステ銀行と共同で作成した経済予測において発表した。

4. **第1四半期に清算された企業数が3.3%増加** (7日)

Opten社は、第1四半期に清算されたハンガリー企業の数が前年同期に比べて3.3%増加して3,947社となったと発表した。また、同四半期に新規に登録された企業数は11.7%減少して11,522社であった。

5. **2月は374百万ユーロの貿易黒字(速報)** (8日)

中央統計局(KSH)は、2月の貿易収支が速報ベースで374百万ユーロの黒字となったと発表した。1月と2月で664百万ユーロの貿易黒字となり、前年の96百万ユーロから大幅に増加した。また、2009年2月より毎月貿易黒字を計上し、2009年は通年で3,979百万ユーロの黒字だった。アナリストは2010年の貿易黒字を38億~53億ユーロと予想している。

6. **オルバーン党首、競争力アップが次期政権の最重要課題** (12日)

第1回投票で過半数を獲得したフィデスのオルバーン党首は、記者会見において、次期政権の最初の経済政策として、減税、官僚機構の削減、汚職への取り組みを挙げた。また、緊縮政策ではなくて、経済成長がフィデスの経済政策の中心となると述べた。

7. **3月のCPIは5.9%** (13日)

中央統計局（KSH）は、3月の消費者物価指数（CPI）が前年同月比で5.9%となったと発表した。MTI社により実施されたシティのアナリスト予想5.61%、Napi Gazdasag紙によるアナリスト予想5.7%を上回った。ロンドンに拠点を置く新興市場アナリストは、予想を上回る上昇は一時的なもので、金融緩和のサイクルを止めるものではないが、2010年のインフレ率は公式予想値をやや上回るものとなるだろうと述べた。

8. **2月の鉱工業生産は8.4%増加**（14日）

中央統計局（KSH）は、2月の鉱工業生産が前年同月比8.4%のプラスとなったと発表した。2008年10月から2009年11月まで常にマイナスであったが、その後3ヶ月連続のプラスとなった（調整前数値）。輸出は15.5%の増加、国内販売は8.7%の減少（共に調整前）となり、輸出が成長を促進していることが明らかとなった。

9. **Ikarus、Raba と組んで新バス開発**（14日）

Ikarus は、Raba と組んでハンガリーの国及び地方自治体向けに新型バスを販売する予定であることを発表した。両社は、国内市場において少なくとも300～500台、Ikarus が長年輸出をしてきた国々からも受注を獲得していくと述べた。

10. **フィデス、IMF、EUと新規契約又は既存契約の延長を模索**（15日）

第1回投票で過半数を獲得したフィデスは、IMF、EUとの既存の融資契約を延長するか、新規に契約をし直すことを模索すると、外相への就任が有力視されているマルトニ元外相がロイター社とのインタビューで述べた。できるだけ早く話し合いを持ち、現行の契約とその現状について議論し、現行契約が10月に満期となる事実に基づき、条項を修正した上での契約延長、若しくは新たな契約の締結について話し合う必要があると述べた。

11. **2月の総賃金は前年比+0.9%**（16日）

中央統計局（KSH）は、2月の総賃金が前年同月比+0.9%、基本給が+

3.2%となったと発表した。2009年通年の総賃金は前年比+0.5%であったが、内訳は民間部門が+4.3%、公共部門が-7.9%であった。2月もこの傾向は変わっておらず、民間部門が+4.0%、公共部門が-6.2%だった。

12. **TESCOが2009年の国内食品小売で第1位** (20日)

市場調査会社ニールセンによれば、イギリス系スーパーマーケット・チェーンのTESCOの2009年の売上高は6,384億フォリントで、食品小売として国内最大だった。2位はハンガリー系CBAで5,475億フォリント、3位はCOOPの5,100億フォリントで、この上位3社の順位は2008年と同じであった。TESCOは国内176店舗、CBAは3,054店舗、COOPは5,250店舗を有している。

13. **13ヶ月目の給与を受け取る就業者は減少、金額は増加(2009年)** (20日)

インターネット職業ポータル Workania の調査によると、13ヶ月目の月給を受け取った就業者の数は2009年に前年比11%減少したが、その受取り額は16%増加していた。2009年の平均額は188,600フォリントで、2008年は162,000フォリントだった。また、2009年末にボーナスを受領していたのは就業者の40%だけだったが、その平均額は7%増加し、197,000フォリント(いずれも課税前)となっていた。

14. **GKI、4月の消費者・企業信頼感指数は改善** (22日)

GKI(政府寄り経済シンクタンク)によれば、4月の消費者・企業信頼感指数が、2月の-22.4ポイント、3月の-18.6ポイントから上昇し、-17.2ポイントとなった。消費者信頼感指数は、3月の-41.2ポイントから-37.0ポイントに上昇し、2006年5月以来最も高い水準となった。消費者信頼感指数は2009年4月の底打ち以降、上昇が続いている。

15. **小売売上高の下落が減速(2月)** (23日)

中央統計局(KSH)は、2月の小売売上高が前年同月比-4.3%(暦年調整後)となったことを発表した。1月は-5.6%であり、下落は減速した。小売売上高は2007年2月から下落が続いており、2009年通年では前年比

－ 5.2%だった。

16. **35億ユーロのナブッコ・ガス・パイプラインの入札の事前審査**（23日）

ナブッコ・ガス・パイプラインの配管、配管の結合部分、塗装、バルブなどの調達にかかる約35億ユーロの入札について、入札業者の事前審査が開始された。事前審査の申し込み期限は5月17日で、入札は審査終了後に行われる。パイプラインの建設工事は、2011年末までに開始される予定である。

17. **4割以上の国内企業は賃上げの計画なし**（24日）

DGSグローバル・リサーチ及びERNST&YOUNGの合同調査の結果によると、国内企業の43%が2010年に従業員の賃上げの計画がなく、国内企業の45%が2009年に賃上げを行っていなかった。賃上げを計画している企業における賃上げ幅は、1～10%まで様々である。

18. **基準金利：25ベース・ポイント切下げ**（26日）

ハンガリー中央銀行（MNB）の理事会は、市場の予想通り、基準金利を25ベース・ポイント切り下げて5.25%とすることを決定した。これで2009年7月から基準金利は合計425ベース・ポイント切り下げられたことになる。シモル総裁は、インフレ率は現在不安定だが予測を下回っており、2011年に目標値の3%未満に抑えることができる、ハンガリーは周辺国に比べても低リスクとされており、今後もリスク低下が続けば更なる利下げもありうるとした。

19. **次期政権、税制、官僚機構及び地方自治体に関するプランを提出予定**（26日）

総選挙で2/3以上の議席を得たフィデスのオルバーン党首は、会見で税制改革、官僚機構スリム化及び地方自治体との新たな協力関係に関するプランを提出する予定であると述べた。同党首はまた、これらのプランを実施する前に財政の実態をレビューしなければならないとした。

オルバーン党首は、家族を優遇する税制は2011年1月から導入予定とした。また、同党首は一般政府財政赤字について、新政権としても削減を目指す。問題は現状で既に多額の債務を抱えている点であり、これを考慮に入れると現政権が立てた目標値（3.8%）の達成は不可能であると述べた。

20. **アナリスト、財政赤字目標値修正のためのIMFとの再交渉を予想** (26日)

各機関のアナリストは、総選挙でフィデスが2/3以上の議席を得たことを受け、同党が他党に譲歩することなく構造改革を断行することができ、5月の新政権発足後にはIMFと財政赤字目標値の修正のための再交渉が行われるだろうと述べた。

モルガンスタンレー（ロンドン）は、フィデスはIMFとの協力の重要性を理解しており、IMFとの再交渉による財政赤字目標値はGDP比5%程度となる見込みであるが、単なる財政緩和ではなく、成長を阻害しない程度の赤字目標と引き替えにいくつかの改革を提案するだろうとした。

ゴールドマンサックス（ロンドン）は、フィデスがIMFからの支持を取り付けて新たな経済安定化プログラムを作成すれば、ハンガリーのリスクプレミアムは減少するだろうとした。

サクソ銀行（コペンハーゲン）のアナリストは、フィデスが2/3超の議席を利用して、地方政府及び国有企業の改革を実施すれば、フォリントはユーロに対して相当程度に高くなり、資本の流入がもたらされるだろうとした。

CIB銀行のアナリストは、フィデスの2/3超の圧勝は織り込み済みであり、総選挙の結果がフォリント相場に大きな影響を及ぼすことはないが、市場は新政権とIMF等との交渉の結果に大きく反応するだろう、市場は新政権が現政権による財政健全化路線を踏襲し、構造改革のための施策を打ち出し、雇用率を上昇させ、生産・輸出・投資に基づく成長を刺激することを期待していると述べた。

21. **ハンガリー人の1/4が貯蓄** (27日)

Raiffeisen銀行及び市場調査会社GfKハンガリーが実施した調査によると、回答したハンガリー人の23%が「貯蓄」をしていると答えた。うち、70%が今後1年間で貯蓄が減少すると考えている。貯蓄の形態については、預金が50%、株式が20%、年金基金又は生命保険が19%、現金が10%であった。調査対象となったのは、15歳から69歳までの約1,000人。

22. **ナブッコ・パイプラインのフィージビリティスタディを開始** (27日)

ミハーリ・バイエル移動大使（エネルギー安全保障担当）は、ナブッコ・ガス・パイプラインのハンガリー部分に関するフィージビリティスタディの開始を発表した。第1フェーズは開始から33日以内で完了し、暫定的な結論が5

月に発表される。その後、第2フェーズを経て、環境面での許可決定は今秋になされる見込み。総延長3,300kmに及ぶナブッコ・パイプラインのうち、384.3kmがハンガリー部分となる。

23. **第1四半期の失業率、11.8%** (28日)

2010年第1四半期における15～74歳の年齢グループにおける失業率は11.8%で、2009年12月から2010年2月までの3ヶ月間における数値(11.4%)からさらに悪化した。前期からの増加率は減少しているが、これは1993年第1四半期の12.5%に次いで高い数値である。このことについて投資会社 Equilor のアナリストは、輸出の増加が緩やかな経済成長をもたらすものの、国内需要が低迷している限り新規雇用が創出されないため、少なくとも今後6ヶ月間は失業率の悪化が続くだろうとした。またCIB銀行のアナリストは、今回の失業率悪化は政府助成金を受けた雇用創出プログラムの終了が影響したものであり、今後も同じ傾向は継続するものの、2010年末には10.7%程度に落ち着くと予測した。

24. **コストコ、ハンガリーワインの販売契約に合意** (29日)

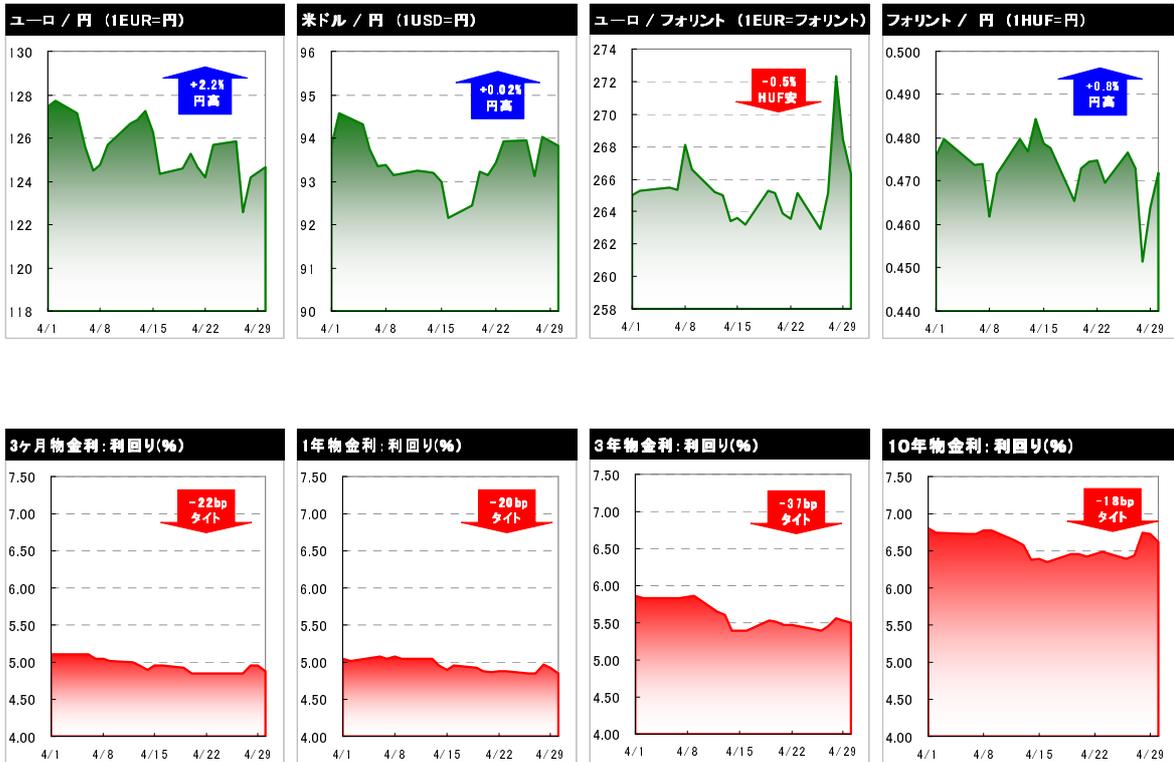
国有ワイン販売会社の Tokaj Kereskedohaz は、米会員制倉庫店チェーンのコストコと10年間のトカイワイン販売契約を締結したと発表した。コストコは年間25万本を購入することになるが、これはハンガリーから米国へのワイン輸出量の10%に相当する。最初の発注は2001年のヴィンテージ物のトカイ・アスー(ギフトボックス入り)であり、コストコはこれを1本15～20ドルで販売する。これは欧州における販売価格の約2倍。

25. **ライアンエアー、ブダペストから撤退** (30日)

格安航空会社のライアンエアーは、ブダペスト・フェリヘジ空港との空港利用料金値下げ交渉に合意することができなかったため、2010年10月からブダペスト発着便の運行を中止すると発表した。これについて同空港は、本件撤退による間隙はまもなく競合他社によりカバーされるはずであり、影響は小さいとしている。ライアンエアーは現在、ブリストル、ダブリン、東ミッドランド及びグラスゴー・プレストウィックの各空港への航空便を運行している。

IV. その他

《4月の為替・金利動向》



《4月の選挙・支持政党に関する世論調査》(注)

(1) 支持政党の変遷（確実に投票に行くと回答し、いずれかの政党を選択した者の支持政党）

	(2月)	(3月)	(4月)
(与党)			
社会党 (MSZP) :	22%	20%	20%
(野党)			
フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz) :	58%	57%	62%
ハンガリー民主フォーラム (MDF) :	2%	1%	1%
(非国会政党)			
政治の新しい形 (LMP) :	1%	3%	3%
ヨッビクーハンガリーのために :	14%	17%	13%
その他政党 :	2%	2%	1%

(2) 質問事項：仮に今週日曜日に総選挙があるとすればどの党に投票するか（質問者全員よりの回答）。

(与党)	
社会党 (MSZP) :	12%
(野党)	
フィデスーハンガリー市民連盟 (Fidesz) :	38%
ハンガリー民主フォーラム (MDF) :	1%
(非国会政党)	
政治の新しい形 (LMP) :	3%
ヨッビクーハンガリーのために :	8%
その他政党 :	2%
わからない、投票しない :	36%

(注) ソンダ・イプソス社調べ（3月27日－4月2日データ収集、サンプル数：18歳以上の市民1500人）。

Republic of Hungary

2010年4月の出来事

日	内政	日	外政
3-4	・【総選挙】国外大使館・総領事館で期日前投票。	8	・バイナイ首相、オバマ米大統領主催中東欧諸国首脳との夕食会に出席(プラハ)。
6	・グラーフ農業・地方開発相、総選挙後の政界引退を表明。	10	・ショーヨム大統領及びバイナイ首相、カチンスキ・ポーランド大統領夫妻逝去に弔意表明。
9	・【総選挙】第1回投票前キャンペーン最終日。	15	・ハンガリー・オーストリア外相会談開催。
10	・ホロコースト否定発言禁止法施行。	16	・ハンガリー・クロアチア・セルビア三カ国大統領会談開催。
11	・【総選挙】第1回投票。フィデスが単独で過半数議席を獲得、ヨッビクとLMPが初の国会進出。MDFは議席獲得ならず、ダーヴィド代表辞任。	16	・セケレシュ国防相、NATOラスムセン事務総長と電話会談。
13	・【総選挙】社会党、第2回投票におけるブダペスト小選挙区4候補の立候補取下げを発表。	17	・カチンスキ・ポーランド大統領追悼式典がブダペストにて行われる。
14	・最高検察局、クバトフ疑惑に関する社会党の訴えを却下。	18	・カチンスキ・ポーランド大統領葬儀にショーヨム大統領、バイナイ首相他出席。
16	・アイスランド火山噴火の影響でハンガリー国内全空港閉鎖。	22-23	・バラージュ外相、NATO非公式外相会合出席(タリン)。
18	・ホロコースト犠牲者追悼式典。	26	・バラージュ外相、EU外務理事会及び総務理事会出席。
19	・国内空港で部分的に航行再開。	27-28	・バラージュ外相、第4回ヨーロッパ・ウクライナ・フォーラム参加(キエフ)。
21	・【総選挙】ヨッビク、ボルシヨド＝アバウーイ・ゼンブレーン県第8小選挙区で立候補取下げ。 ・ブダペスト市警察本部、首都公共空間整備保全会社(FKF)汚職疑惑の捜査を開始。	29	・米国、ハンガリー・アフガニスタン部隊に対して998万ドルの供与を決定。
23	・【総選挙】第2回投票前キャンペーン最終日。		
24	・クリティカル・マス、鎖橋などで自転車デモ。		
25	・【総選挙】第2回投票。フィデス＝KDNPが総議席の3分の2を上回る263議席を獲得。レンドヴァイ社会党党首が辞任表明。		
28	・ショーヨム大統領、オルバーン・フィデス党首と会見し、組閣を要請。		
29	・オルバーン首相候補、副首相他数名の主要人事を発表。		

Republic of Hungary

Embassy of Japan in Hungary

1125 Budapest Zalai ut 7. Hungary
TEL :+36-(06)-1-398-3100

E-Mail

政務関係 : political@japanembassy.hu

E-Mail

経済関係 : economic@japanembassy.hu

E-Mail

広報文化関係 : culture@japanembassy.hu

E-Mail

領事関係 : consul@japanembassy.hu